

大村市こども夜間初期診療センター 開設にあたり

大村市医師会 会長 長崎 省吾

4月1日から始まります。大村市こども夜間初期診療センターの開設にあたり、これまでの経緯も含め市民の皆様にご挨拶申し上げます。

全国的にも大きな話題となってきた小児科医不足問題が私たちの足元にもおよび、大村市立病院の小児科医が長崎大学の方針で長崎医療センターに集約されることとなり、一時休診せざるを得なくなりました。誠に残念でなりません。市立病院小児科は1次2次医療機関として、1年間で延べ1万数千人の子供達の診療を行ってきた実績があるだけに、小児科休診は子供達を育てている方々に大きな不安を与えることとなります。そのことは行政に大きな責任があると考えております。

そのような中、「子供たちが安心して生活できる環境」を提供していくために、特に子育てにおいて不安の多い夜間の病気に対する対応を模索し、大村市行政、大村市医師会、国立長崎医療センター、大村市立病院の4者で何度となく協議を重ねて参りましたが、協議の結果として最終的には、大村市行政が当医師会に対して、「こども夜間初期診療センター」の運営協力を要請してまいりました。

私たち医師会は、地域の皆様に最も身近な1次初期医療を担っている立場から、大村市の申し出に協力することに何ら異論はないところであります。しかし、大村市

内の小児科開業医は限られており、市が提供する夜間初期診療に協力をするとしても、おのずから限界があります。これまでのデータによると、深夜時間帯(夜中)の発病による受診者数は少なく、また比較的

重症救急患者であることが多いことから、そこは3次医療機関である国立長崎医療センターに対応をお願いすることとして、比較的軽症で、時間外受診患者数の90%以上を占めている夜間の午後7時~10時の時間帯に限定し、行政と協力しあい、「こども夜間初期診療センター」を開設する運びとなりました。

先に述べましたような理由で、当センターは、小児科以外の開業医の先生も診療に当たりますが、診療経験は豊富で、診療の質の向上を目指して随時に研修会を行っていくようにもしております。また、重症と判断される時は直ちに国立長崎医療センターへ紹介する体制も整えております。

市民の皆様には、以上のような経緯をご理解いただき、どうか「大村市こども夜間初期診療センター」の運営にご協力頂きますようお願い致します。



健康コラム

vol.6

小児の発熱

大村市医師会 会員 有山 昭典

まず、何度以上を発熱と考えるかはいろいろな意見がありますが、ここでは**38度以上**を発熱と考えることにします。

3ヶ月未満の赤ちゃんの発熱

38度以上の熱がある場合には時に重大な病気(髄膜炎、敗血症など)のことがあるので、元気なようにみえてもすぐ病院を受診しましょう。



3ヶ月以上の年齢になると全身状態(飲み方、元気、顔色など)がよいようならそんなに急いで受診する必要はありません。夜熱がでたら翌日の受診で構いません。



生まれて初めての発熱

「突発性発疹」という病気のことが多いのですが、この病気は初期には診断のつかないことが多く、熱が下がるのと入れ替わりに発疹(皮膚に出るブツブツ)がでて診断がつくことがほとんどです。この病気のあと多くの子供さんが種々の熱の出る病気にかかるようになります。

暖かくして汗をかかせて熱を下げようとするのは危険!

脱水をおこす可能性があります。熱が急に上がり悪寒がして本人が寒気を訴えている時には少し暖かくしてあげてもいいですが、それ以外はあまり着せすぎたり布団をかけすぎたりしないようにしましょう。また安静も大切です。お出かけは延期しましょう。

解熱剤を使ったほうがいい場合

一般的には38.5度を越えてぐったりして十分に水分がとれない状態だったり、夜なら寝苦しそうな場合です。39度あるから40度あるからと体温で使うかどうか決めるものではありません。全身状態で判断しましょう。ただしめったにありませんが41度を越えたら急いで下げなければなりません。



現在小児に安全に使える解熱剤

アセトアミノフェン(商品名カロナール、コカール、アンヒバ、アルピニーなど)とイブプロフェン(商品名ブルフェン、ユニブロンなど)の2つのみです。他の解熱剤は使わないようにしましょう。



小児が発熱した場合、解熱剤を使ってむやみに熱を下げないで。

熱は侵入してきたウイルスや細菌を倒すための体の防衛反応です。解熱剤を使いすぎると回復が遅れます。最も大切なことは水分の補給です。飲ませるものは嘔吐や下痢がひどくない限りは、本人が好きで構いません。赤ちゃんには母乳やミルクが一番です。



編集後記

大村市医師会 理事 田崎 賢一
今回の紙面はこども夜間初期診療センター一色です。大村市立病院小児科閉鎖というショッキングな事態に際して、大村市医師会としては初期医療についての市民の皆様の不自由を最小限にとどめるべく、現状での持てる力を総動員して対応しようとしています。将来を担う子供たちを育てるには医療の提供者と行政、市民の協力が不可欠です。市民の皆様にはご理解たまわりたくお願い致します。